

予算執行の現場確認

予算が『どのように使われたのか』『これから、どのように使われようとしているのか』。予算執行の前後で確認することは重要です。特に、形状が変わるものや形が残るものについては、現場で担当職員から説明を聞きながら、確認することで理解が深まります。そこで、議会と議会の合間に、予算執行の現場を巡りました。

○緊急時の応急給水所 1100万円

災害時に必要となる飲料水を確保するため、近畿運輸局大阪運輸支局内（陸運局、高宮栄町）に給水栓が設置されました。給水口は60ヶ所まで対応でき、18ℓのタンクであれば1分かつからず入れられます。



○防災井戸の設置 3000万円

災害時の避難所での生活用水を確保するため（飲料用ではありません）、手動ポンプ式井戸が10の小学校に設置されました。池田・桜・点野・北・田井・木屋・神田・和光・成美・啓明の各小学校。選定理由は、水の確保場所が少ない市域西側、かつ、耐震性貯水槽が設置されていない、この2つです。

○高宮あさひ丘の配水場 総事業費7億4669万円

平成28年度から3年計画で取り組まれている事業です。旧の配水池を撤去し、新たにステンレス製配水池が設置されました。近年の配水量の減少傾向を踏まえ、容量は3分の2の2000m³に抑え、更に、自然流下で配水できる区域を増やすことで電力量（料金）の減少にもつなげています。



○東寝屋川駅周辺のまちづくり 10億2928万円

駅西側の打上高塚町では、土地区画整理事業として東寝屋川駅前線（幅員16m）の整備をはじめ、病院・商業施設・住宅などの整備が予定されています。写真のように、予定地区は、ほぼ更地になっています。駅前線と交差する枚方富田林泉佐野線も一部拡幅されます。

また、区域に隣接する明和小学校内には、市内で初となる施設一体型の小中一貫校が平成34年度開校を目指し建設される予定です。

○市営住宅 第1期建て替え事業 19億8102万円

築後約50年の市営住宅は、お風呂やエレベーターがなく、耐震性にも問題があることから、長寿命化対策ではなく建て替えが望ましいとの調査結果でした。それを受けて始まった市営住宅の再編整備・第1期建て替え工事が完了しました。

上記の現場以外に、

「ふるさとリーサム地区まちづくり整備事業での明和北地区」

「教育研修センターが移転する予定となっている旧明德小学校」

「中学校給食の食べ残し確認（4中）」

「待機児童を対象とした新たな保育施設であるきんもくせい保育園・分園（成田西町）」

「小中一貫校建設工事により無くなる明和小学校の運動場の代替地」

を確認しました。

29年度 市民意識調査の結果

かつて、この調査は総合計画の改訂時の審議に使うバックデータとして実施されることはありませんでした。その重要性を鑑み、実施回数を増やすことで精度を上げる必要性を感じ、定着に向けた提案をしました。（2011年8月1日号をご参照ください）
後の平成23年度に隔年実施が決まり、定着しました。

メリットは・・・

- ・市民ニーズ（意識）の確認ができる
- ・毎回、同じ質問をすることで傾向が分かる

不足と感じる所は・・・

- ・質問内容がおおまかな問いかけのため、具体的な取り組みの評価までは分からない
- ・質問が行政全般に及び、回答が5段階のため、回答が真ん中に偏る傾向にある
- ・財政状況は考慮されておらず、満足度を測る調査になっている

平成29年度の調査結果と、平成22年の結果を比較しました。（同一質問は全部で36項目）大きく意識が『改善』したものを紹介します。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 「自治会や小学校区での地域活動が盛んである」 | 13. 2%アップ (33.1%⇒46.3%) |
| 「健全な財政運営が行われている」 | 12. 6%アップ (11.8%⇒24.4%) |
| 「地域の福祉活動が活発に行われている」 | 12. 5%アップ (25.5%⇒38.0%) |

逆に、『後退』したものは次の項目です。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 「雨の時に浸水の不安がある」 | 12. 4%ダウン (40.9%⇒53.3%) |
| 「消費生活センターからの情報が役立っている」 | 12. 1%ダウン (25.3%⇒13.2%) |

中核市移行の審議(要約)

板東：文教行政では、法定研修等を独自に行えるメリットもあるが、講義を行う講師確保の課題や、若い先生の比率が多いことから授業面への影響が考えられるか？

行政：研修を寝屋川市で全て行えることによって、今の市の課題や育てたい子ども像など、同じ方向を向いて、同じ目的を理解し、系統だった研修ができる。
講師等については、近隣の中核市や府の研修センターとの連携など、体制を整えている。

板東：環境行政に関しては、職員が大阪府へ派遣することで準備行為に入っているが、対応は十分か？

行政：公害関係、大気汚染、産廃関係には化学の知識を有する職員を採用した。1年間かけて府への研修派遣で対応可能と考えている。

板東：保健所運営について、現行の水準を下げずにサービスを実施することは可能か？

行政：昨年の6月から枚方市保健所に保健師3名を派遣している。更に、この4月から1年間、大阪府に専門職を派遣する。移行後も、府から指導を受けることで現行水準を継続していく。

板東：移行までの主な課題は？

行政：市民への周知、移行に係る法定手続、円滑な中核市事務の実施に向けた体制整備と考えている。

明治初期の小学校

明治5年（1872）8月に学制が公布され、寺子屋や私塾を転用したような小学校が設置されていく。堀溝・木田・秦・高宮・三井・太間・門田・仁和寺・神田・寝屋・打上・燈油の12校。これらの学校は、名称や位置を変遷させながら統合されていくことになる。

現在の地名ではなくなっている「門田」は池田地域、「燈油」は明和地域である。

学校の設立と運営は「村の基金と寄付金、授業料をもってまかなうべし」という政府の方針通り正規の高い授業料を取ると、学校に来なくなることから、寄付金を当てにせざるを得なかった。その寄附も、強制的なものであった。

【明治10年の就学率】

三井小学校・・・76.3%（男子…85.5% 女子…65.2%）

全国平均・・・39.9%（男子…56.0% 女子…22.5%）

【小学校で用いた書籍】（堀溝小学校の例）

「十八史略」「童蒙教草」「消息往来」「万国公法」「格物入門」など

【明治9～13年頃の小学校生徒数】

（寝屋川市誌より）

学校名	通学区域	教師数	男子生徒	女子生徒	合計
門田校	池田三村、葛原	2	59	26	85
仁和寺校	仁和寺・黒原	3	61	42	103
神田校	神田・大利・高柳	3	95	15	110
堀溝校	木田・堀溝・河北	5	130	55	185
秦校	秦・高宮・小路・太秦・平池	2	75	41	116
太間校	太間・石津・木屋	3	61	42	103
三井校	三井・田井・郡・国松	2	72	44	116
打上校	打上・燈油	2	75	41	116
寝屋校	寝屋	1	42	32	74

議長就任に対して

全議員の推挙により、第60代寝屋川市議会議長を拝命することとなりました。

これも偏にご支持ご支援いただいている皆様方のお陰と、感謝申し上げます。

議長職という職責の重さに身の引き締まる思いですが、公平・公正、かつ円滑な議会運営の実現に向け、努力してまいります所存です。

今後とも、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。